

平成29年度第2回ナセBA運営協議会議事録

1. 開催日時 平成30年1月26日（金） 午後3時～午後4時30分

2. 開催場所 ナセBA体験学習室

3. 出席者

（委員）

大沼敏美（県立米沢東高等学校校長）

我妻 仁（前市立図書館協議会会長）

新藤 透（米沢女子短期大学准教授）

吉原ゆみ子（図書館サポーター）

菊池修（米沢市芸術文化協会副会長）

白田静雄（リーガル店主）

田島奈央（主婦）

計 7名

（事務局）

公益財団法人米沢上杉文化振興財団

佐藤広明（理事長）、菅野智幸（常務理事兼事務局長）、村野隆男（館長）、

青木昭博（主幹）、遠藤朋香（図書業務担当）、齊藤かおり（図書業務担当）、

石黒志保（郷土資料業務担当）、生熊郁子（総務）

計 8名

欠席者

（委員）

土屋 宏（米沢市立興譲小学校校長）

加藤公一（米沢市立第三中学校校長）

中嶋朱実（米沢市芸術文化協会）

計 3名

4. 開 会 （事務局長）

5. あいさつ （理事長）

ナセBAが開館して2年目、これまでおおよそ計画通りに事業、業務を進めることができた。これもひとえに市民のみなさんの厚いご支援と市のバックアップ、手前味噌ではあるがこの職員の献身的な働き、そして委員のみなさまのご提言に負うところも大きかった。利用状況については後ほど報告する

が、ほぼ見通し通りに進行している状況である。

昨年7月の第1回の時には、「開館して1年のナセBAに望むこと、期待すること」を課題としてみなさまからさまざまなご提言をいただいた。

本日は、そのときにいただいたご提言を受けて取り組んだこと、そしてその成果・課題を報告して第一の協議題にし、次に今年度の財団の内部評価の中間評価について第二の協議題として提案する。更なる改善のご助言を頂戴したい。三つ目には次年度の図書館および市民ギャラリーの開催予定事業について説明するので、ご意見を頂戴したい。最後に、今年度実施した図書館とギャラリーについての利用者アンケートの集計結果についても示すので、ご意見ご感想を頂戴したい。

これまで今日を入れて4回、協議会を開催したが、そのたびに申しあげてきたが、図書館は「歴史に学び、今を生き、未来を創る市民の図書館」を目指し、市民ギャラリーは、「芸術文化を高め、芸術文化に親しみ、活気あふれる市民の芸術文化活動の拠点」を目指している。その方向に向かって着実に階段を上っていけるよう、委員のみなさまには、そうした観点からのご意見を頂戴したい。

## 6. 議 事

運営協議会要綱第6条に基づき、我妻仁会長が議事を進行。

### 1) 第1回ナセBA運営協議会の意見要望に対する取り組みについて

(会長)

昨年7月に行われた平成29年度第1回ナセBA運営協議会の意見要望に対する取り組みについて、ご意見を頂戴したい。事務局からまずは説明をお願いします。

(事務局) 資料1 について説明

事業については、参加者を増やすために広報のしかたについて検討の必要がある。また、中高生のマナーについて、一部の中高生だが、仲間と一緒に座りたがる生徒がいる。それに対しては一般の閲覧席を確保するために使用不可のサインを用意している。また試験前に特に多いが、食べ物をこっそり食べたりする中高生が多い。直接、職員が指導している。

アタゴオル巡回先・日時については、すべてのコミセンでポスターを掲示してもらうようお願いした。広報誌「ザワワ」にも掲載。その結果、利用者数は上回っている。

市民ギャラリーについては、今年度のARTS MEET OKITAMA 2018年から芸文協と協力して有償ボランティアをする予定。

(大沼委員)

第1回の協議会を受けて、生徒のマナーについて校長会、生徒指導の先生方の集まりの中で話をした。各高校として共通認識をもっている。図書館でも対応をしていただいて、感謝を申し上げたい。

(吉原委員)

広報のありかたについては、HPをご覧になる方もいると思うが、看板・ポスターなど、市のイベントはよく行くスーパーなどに掲示されている。普段の生活のなかで目に付くようになれば、広く周知できるのではないかと。

(菊池委員)

ギャラリーについて、ボランティア組織を立ち上げるということについて、先日、芸文協展示部門の委員会の中で早速、数名の方が手を挙げていた。私自身もボランティアをしたいと思っている。これからはますますボランティアが必要だと思うので、しっかりした体制をとってほしい。

(田島委員)

アタゴオルの問題について、早速対応してもらいありがとうございます。交通手段がない方、小中学生など自宅近くで借りられたらとても便利だと思う。

(白田委員)

ナセBAを中心とした街づくりが大事だと認識している。雪灯籠まつりも、西條天満公園が第二会場。竹あかりもそうだが、賑わいづくりを今後もしていきたいと思う。昨年行われたナセBAの寺子屋も、大学生が活躍した。そういう繋がりも大事にしたい。

(新藤委員)

小中学生向けのイベント開催を積極的に行っていることは高く評価できるが、幅広い年代の講座、最近の図書館の動向では、高齢者や障がい者向け、社会人向けのイベント、サービスが議論されている。たとえば認知症についての講座などこれまで図書館とはあまり縁がなかった人たちへいかにこちらからアプローチしていくか求められている。三年目、四年目に向けて具体的にどのような準備をされているのか。

(事務局)

来年度は、一般向け、大人向けの読書会を考えている。芸文協に文学部門があるので、協力してもらい開催する計画である。幼稚園向けの読み聞かせをしているが、老人ホーム向けの読み聞かせの出張サービスもしたい。

竹あかりはこの体験学習室で制作している。そういう面でも、ナセBAは関わっている。

(会長)

こちらの要望を積極的に検討されて、たとえばリユースコーナーや中活協と一緒にナセBAの寺子屋もされていたが、今後も続けてほしい。

現在、小中学校の書初め展が開催されている。これまで図書館に来たら本を借りるだけだったが、ついでに書初め展も見られた。ギャラリーと一緒にすることでこの施設は素晴らしい潜在能力を秘めている。

## 2) 平成29年度財団運営中間内部評価について

(事務局) 資料2 について説明

(大沼委員)

議題とは少し離れるが、これからは新聞も取らない、本も買わない家庭が増え、その差はますます顕著に開くと思う。そういった中で図書館の役割が大きい。本来であれば、学校図書館が担うべき仕事だが、高校は学校司書を配置しているが、小中学校は司書がない上に多忙を極めている。図書館で、アタゴオル巡回文庫などを行っている。子どもの格差を埋めるためにも、学校と図書館との連携を期待したい。

(新藤委員)

少し内部評価から離れるが、当館の分類記号は3桁、3次区分である。当館規模だと、細目表4次・5次区分を検討してみてもどうか。詳細に分類できる。昨年、米沢女子短期大学で日本図書館文化史研究会を開催し、当館を見学したが、専門家からもその意見が寄せられた。

(事務局)

分類記号については一部4桁(4次区分)にしている。NDCも10版を採用し、新規購入図書についてはその基準(一部4次区分、10版対応)でしているが、既存の図書を4次区分に直すということは、ラベルの貼り替えなど手作業になる。人海戦術となり、通常の業務の中で行っていくのは非常に困難だが、準備をすすめている。まずは10版で変わったところへの変更を優先にして、4次区分の変更についてはもう少し先と考えている。もしくはある程度時間をとって行うか検討していきたい。

## 3) 平成30年度市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリーの開催予定事業について

(事務局) 資料3 について説明

(会長)

ギャラリーの稼働率が、96.9%という高い数値なのは、来年はほぼ埋まっている状況なのか。

(事務局)

ギャラリーには9つの展示室があり、その内の1つの展示室で催しを開催していれば稼働しているとみなすので、すべてが埋まっているという状況ではない。秋9月～1月頃は満杯状態。

(大沼委員)

これは当然、市の予算あってのことだと思うが毎年の予算は、減らされたりしてはいないか。

(事務局)

基本的には、指定管理の5年分は一定で、その予算内でやりくりしている。  
つい先日から新聞のちらし広告を置いたが、とても好評を得ている。

(大沼委員)

それは、新聞をとっていない家庭が多いということだと思う。

(会長)

学校との連携の話がでたが、ほとんどの学校がナセBAを見学したのか。

(事務局)

市内の学校はほとんど来ていただいた。学校全部というわけではなく、今年度は二年生とか、学年を指定して来ていただいているようだ。

(会長)

学校で来た次はお母さんと来たり、と繋がっているのだと思う。

(事務局)

来館の際に、学校側から利用者カードや読書通帳を作りたいと要望がある。時間の制約があるが、要望には応えている。今後もしていきたい。

(会長)

NHKの番組で、ファミリーヒストリーという有名な人間の祖先をたどる番組がある。恐らく番組スタッフの方が図書館や郷土資料などで調べているのだと思う。自分の先祖などを調べるときには、米沢の資料などを使う必要がある。これは一つの例だが、レファレンスについて、レファレンスコーナーには常時誰か座っているのか。

(事務局)

常時は自席におり、利用者が来られたらカウンター対応で現状は間に合っている。

#### 4) その他

(事務局) 利用状況について説明

(田島委員)

休館日について、前は月曜休みだったが、現在は月1回。利用者にとってはありがたいが、職員の方からしたら月1回で大丈夫か。サービスの向上のために休館日をもっとあってもいいのでは。先ほどあった分類番号など休館日が増えることでできる仕事もあるのではないかと思う。

利用者アンケートが今回の議題にあったが、利用していない人へのアンケートが気になる。学校のほ

うで子どもたちが図書館を利用する、しない理由について、アンケートをとることで、今後10代の利用の促進に繋がるのではないかと思う。

(事務局)

学校、生徒へのアンケートは3年程前に、「こども読書活動推進計画」の策定時に行った。その時の結果を踏まえて計画を行っている。

休館日についてのご意見はありがたく、現状ギリギリだがなんとか業務を行っている。蔵書点検や分類番号の変更など大掛かりな業務をしなければならないときには、ある程度お休みをいただくことになると思う。

(白田委員)

商店街の道路を車で逆走する人が多い。若い時に町場にきていない人が多いのだと思う。図書館を作ったのは絶好のチャンス、みんなで協力していきたい。

自分も本ですごく人生を変えられたひとり。図書館に人が集まれるようにしていきたい。

(新藤委員)

新しい企画を考えて実行するのは大変な苦労だと思う。来年度の計画を見ると児童サービス寄りの傾向だが、にぎわい創出といった点では館内でぜひイベント的なものを考えてもらいたい。たとえば、ビブリオバトルや、県立図書館で行った一箱古本市などを1階でするとか、成人層も立ち寄ってくれるのではないかな。

広報活動でも twitter や Facebook を立ち上げ、ゆるい内容を若手職員が一日数回つぶやくことで若者は興味を示すのではないかと思う。図書館独自のゆるキャラを市民から公募するイベントをし、活性化を図る。または館として図書館総合展への参加するなどはどうかな。

たまたま twitter を見ていたら、関東の方が旅行途中で当館に立ち寄ったらしく、壁面書架の写真をUPし、米沢にすごい所があるとツイートしていた。Twitter で素晴らしいコレクションがあるとか、イベント告知とか毎日のようにツイートしていけば、全国的に知名度もあがる。

米沢は観光都市であるので、上杉神社、博物館との連携（スタンプラリー等）をとってもらいたい。

(大沼委員)

前回の協議会の際にナセBAのロゴマークについて、「もっと宣伝を」といった提案をしたが、HPなどで改善してもらい非常にありがたい。さまざまな要求を反映してもらいスタッフの方に感謝申し上げる。

ナセBAを取り巻く環境について、アクセスを含めて、行政へのお願いになる。先週からひどい雪だが、県外からのお越しの方が米沢の道路脇に雪を積み上げる除雪の仕方に驚いていた。これがSNSに載ると、米沢はこういうところだと思われるのが心配だ。米沢の魅力ある町づくりについて考えると、ナセBAやこの中心部に県外からの来館者が来られることについてどれだけ行政が意識しているのか。今回の議事録も行政に届くと思うが、そのことへの対応をお願いしたい。

(吉原委員)

ナセBAに来るたびにいつも新しいものが目に入るのがうれしい。職員の方の尽力だと思う。また、市民の小さなささやきで改善されているのも、みなさんの努力のお陰だと感謝している。

気になったのは、大人の方で「図書館はどこにあるの？図書館を利用する上で利用料はかかるのか？」という声を聞く。子どもところに図書館を利用していなかったのではないかと思う。子どもたちが自由にできる使える環境が大事だと思う。

(菊池委員)

先人顕彰コーナーの展示についていろいろ企画されていて、すばらしい展示内容だ。先人顕彰については伝国の杜を建設するときにも要望があったものなので、当館で実現して良かったと思う。私は毎回大変楽しみにしている。来年度は森英介という文学者も展示するようで、これからも幅広く収蔵品を色々な形で見せて欲しいと期待している。

(会長)

以上で議事を終了する。

(事務局)

本日はさまざまなお意見ありがとうございました。このナセBA運営協議会は2年の任期で、このメンバーは本日が最後なので、理事長からご挨拶申し上げます。

(理事長)

28年度・29年度と、ナセBAの開館、土台作りという最も大事なときに委員を引き受けていただき、それぞれのお立場からのご提言を頂戴したことに、改めてお礼を申し上げます。公益財団法人米沢上杉文化振興財団は、指定管理者としてナセBAと伝国の杜という2つの文化施設を運営しているが、それぞれが市民のみなさまに愛され、必要とされる生涯学習施設となるよう努力してまいりますので、今後とも、引き続きのご支援をお願いします。

7. 閉会（事務局長）